

浩友会だより

一般質問

質問

夜間土日議会開催が必要

住民自治の拡充と、地方議会活性化のため、夜間や土日に議会を開催する必要があると考えます。

答 町長

夜間土日議会は、地方分権のあり方からも、特色あるまちづくりを進める上からも、望ましいと考えますが、今、置かれている市川大門町の現状から今後のあり方として、検討していく問題だと考えます。

質問

狭隘道路拡幅整備事業

本町の18m以上4m未満の道では、その道の中心線から2m後退することで、家などを建てる事のできる措置がある狭隘道路について伺います。

質問

地元企業への支援事業

バランスの取れた産業構成と、地元企業の経営力強化のため、工業団地構想も視野に入れた、支援事業を検討しなければならぬ状況です。

答 町長

企業の集団化などは取り組むべきと認識しています。が、複雑な問題点もあります。県内の先進事例を調査研究し、検討します。

答 町長



本町は古くから密集化が進み、4m以上の路線は少なく住環境上の問題を抱えていることから、地域と町の協働によるまちづくりを進めています。この秋をめぐりに制度化していきます。

上原線と狭隘道路

町は、将来家を建てることのできるよう、上原地区に町道を計画しています。良い計画だと考えますが、本町中心部の狭隘道路整備との整合性を注目してまいります。建築基準法の解釈や道路の考え方など奥深い問題で、半世紀を越える懸案です。町内で不公平感が生じないよう唱えています。



市川高校

県は、2015年頃の人口推計を基に、高校再編を行ってまいります。すでに、他の地域では順次実施され、市川高校が含まれる峡西南地域も近く、県の説明会が開かれるようです。県が推進している単位制高校、総合学科高校とも県民の理解が得られていないだけに複雑な問題です。この地に、地元の子どもたちが多く通える高校を存在させると言う考え方で、推進すべきと考えます。

町立病院小児科



新医師臨床研修制度

1968年に廃止されたインターン制度を基本にした臨床研修制度。臨床研修を義務化し、良質な医療提供を目指している。

小児救急センター方式

小児科医不足と夜間休日に集中する医療実態を考慮し、少ない医師で効率的に診療体制が取れるよう、全県の体制で取り組む構想。

全国的な小児科医不足と新医師臨床研修制度、小児救急センター方式構想などによる影響で、町立病院の小児科が休診しています。専門医の受診が妥当であるとの理由で、中学生以下の子どもは、発熱、腹痛などの症状であっても、町立病院では受診できません。町内には千人を越える対象者がおり、町立病院を抱えている町としてどのような対応が望ましいのか熟慮しなければなりません。